

●理事 ●評議員 ●顧問 ★代表理事 ★副代表理事 ●監事 ★事務局長

- 北海道
 - 高木晴光 (特)ねおす 理事長
 - 宮本英樹 (特)ねおす 専務理事・コーディネーター
 - 渡辺史郎 北海道大学科学技術コミュニケーションセンター 養成ユニット 特任准教授
- 青森県
 - 高田敏幸 (特)岩木山自然学校 代表
- 岩手県
 - 吉成信夫 (特)岩手子ども環境研究所 理事長
- 宮城県
 - 佐々木豊志 くりこま高原自然学校 代表
- 秋田県
 - 打矢繁美 (特)あきた海辺の自然学校 会長
- 山形県
 - 新田喜平 (特)ふるさと復興機構 理事長 / 山形県文化環境部みどり自然課 課長補佐
 - 星川 直 (特)グラウンドワークス 理事
- 福島県
 - 進士 徹 (特)あぶくまエクスネット 理事長
 - 松崎和敬 (特)いわきの森に親しむ会 理事長
- 茨城県
 - 飯島 博 (特)アサザ基金 代表理事
- 栃木県
 - 加納麻紀子 (特)塩谷町日熊/木小学校管理組合 事務局長
- 群馬県
 - 宝珠山恭子 ぐんま環境教育ネットワーク (green-net) 理事
- 埼玉県
 - 浅野正敏 建築家 / (特)天覧山・多摩主山の自然を守る会 代表理事
- 千葉県
 - 鹿熊 勤 フリーランスライター(ビーバード地域活性化総合研究所主任研究員)
- 東京都
 - 青木将幸 青木将幸ファシリテーター事務所 代表
 - 立教大学 教授
 - 志岐健一郎 (有)リボン 代表取締役 / (特)エコツーリズム・ネットワーク・ジャパン 代表理事
 - 井東敏子 リードクライム(株) 取締役
 - 岩崎由美 Project WAVE 代表
 - 上田英司 (特)NICE(日本国際ワークキャンプセンター) 事務局長
 - 梅崎靖志 風と土の自然学校 代表
 - 江本嘉伸 地平線会議 代表世話人
 - 大浦佳代 毎月 sea moon 代表
 - 岡島成行 大妻女子大学 教授 / (社)日本環境教育フォーラム 理事長
 - 木邑優子 (有)グレイスアカデミー
 - 国安俊夫 小田急電鉄(株) CSR-広報部 課長
 - 栗原賢治 (有)ユナイテッド・プロジェクト 代表取締役
 - 小林天心 観光進化研究所 代表 / 亜細亜大学経営学部 教授
 - 嵯峨創平 (特)環境文化のための対話研究所 代表
 - 桜井義維 国際自然大学 校長
 - 佐藤初雄 (特)国際自然大学 理事長 / (特)自然体験活動推進協議会 代表
 - ★ 重 政子 (特)持続可能な開発のための教育の10年推進会議 代表理事
 - 穴戸信一 (財)都市農山漁村交流活性化機構 次長
 - 下村彰男 東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
 - ★ 中垣真紀子 (特)日本エコツーリズムセンター 事務局長
 - 中西緒 (有)プラス・サーキュレーション・ジャパン 代表
 - 中野民夫 ワークショップ企画プロデューサー
 - 長与純三 シニア旅行カウンセラーズ 代表理事 / 元日本エコツーリズム協会 事務局長
 - 橋谷 晃 木風舎 代表
 - 福井 隆 東京農工大学大学院 客員教授
 - 降旗信一 東京農工大学大学院 准教授
 - 古瀬浩史 (株)自然教育研究センター 取締役
 - 宮川 浩 (財)自然環境研究センター 部長代理・主席研究員
 - 森 高一 (株)アーバン・コミュニケーションズ 環境プロデューサー
 - ★ 山中俊幸 エコツアー・ドット・ジェイビー 編集人 / (株)クールインク 代表
- 神奈川県
 - 海野義明 (特)オーシャンファミリー海洋自然体験センター 代表理事 / (特)海に学ぶ体験活動協議会 代表理事
 - (特)日本トレッキング協会 常任理事 / (特)信越トレイルクラブ 理事
 - 近藤純夫 エッセイスト / 翻訳家
 - 長谷川孝一 ama水辺の自然文化研究所 代表 / 地球の楽校 事務局長
 - 高木幹夫 (株)日能研 代表取締役
 - 三好直子 懐かしい未来ネットワーク 運営委員 / ネイチャーゲームトレーナー
 - 吉田直哉 神奈川県自然環境保全センター / (特)丹沢自然学校
- 新潟県
 - 関原 剛 かみえちご地域資源機構(株) 顧問
 - 高野孝子 (特)エコプラス 代表理事
- 富山県
 - 佐伯高男 立山自然学校 代表

- 石川県
 - 南 修 (特)白山しらみね自然学校 事務局長
- 山梨県
 - 川嶋 直 (財)キープ協会
 - 小林 毅 帝京科学大学 教授 / 日本インタープリテーション協会 代表
 - 曾根原久司 (特)えがおつなげて 代表理事 / 山梨大学 客員准教授
 - 高田 研 都留文科大 教授
 - 田村孝次 (株)カントリーレイクシステムズ 代表取締役
 - 若林千賀子 若林環境教育事務所
- 長野県
 - 辻 英之 (特)グリーンウッド自然体験教育センター 代表理事
 - 中澤朋代 松本大学総合経営学部観光光ホスピタリティ学科 専任講師
- 岐阜県
 - 橋本 正 オークビル리지 代表
 - 河合美世子 (特)こうじびら山の家 理事
 - 北川健司 (株)アウトドアサポートシステム 代表取締役
 - 西田真哉 トヨタ白川郷自然学校 校長
 - 萩原裕作 岐阜県立森林文化アカデミー 講師 / 野外自主保育「森のだんごむし」
- 静岡県
 - 青木 昇 静岡県賀茂地域支援局 局長
 - 田中啓介 ホールアース自然学校 事務局長
 - 増野清司 静岡県立三ヶ丘青年の家 会長
 - 広瀬敏通 ホールアース自然学校 会長
- 愛知県
 - 村上忠明 (特)こどもたちのアジア連合 代表
- 三重県
 - 大西かおり (特)大杉谷自然学校 校長
 - 内山有紀子 くまの体験企画 代表
- 滋賀県
 - 中村 達 アウトドアジャーナリスト・プロデューサー・コンセプター
- 京都府
 - 西村仁志 環境共育事務所カラーズ 代表 / 同志社大学 准教授
 - 高山 傑 (特)エコロジ協会 代表理事 / The International Ecotourism Society 理事
- 大阪府
 - 辰野 勇 (株)モンベル 代表取締役会長
 - 鳥添 誠 (株)モンベル アウトドアチャレンジ 課長
- 兵庫県
 - 大滝あや Eco-Navi研究所 代表
- 広島県
 - 河野宏樹 環境教育事務所 Leaf 代表
 - 志賀誠治 人間科学研究所 所長
- 山口県
 - 徳永 豊 スリーヒルズ・アンシエイツ 代表
- 徳島県
 - 伊勢達郎 (特)自然スクールトエック 代表 / TOEIC 幼児フリースクール 代表
- 高知県
 - 岡田充弘 海癒 代表
 - 神田 優 (特)黒潮実感センター センター長・理事
 - 清家敬太郎 エコ幢多 代表
 - 山田高司 四万十ガイヤ自然学校
- 福岡県
 - 井手修身 アイデアパートナーズ(株) 代表取締役
 - 小林和彦 茶のくに研究所 主任研究員
 - 養父信夫 (株)マインドシェア 九州のムラへ行く 編集長
- 長崎県
 - 北島淳朗 地域づくりファシリテーター
 - 高砂樹史 (特)おぢかアイランドツーリズム協会 専務理事
- 熊本県
 - 坂元英俊 (財)阿蘇地域振興デザインセンター 事務局長
 - 山口久臣 野外教育研究所IOE 所長
- 鹿児島県
 - 浜本奈鼓 (特)くすの木自然館 専務理事
 - 山下田紀三 写真家 / 屋久島セミナー 主宰
- 沖縄県
 - 浅子智昭 がじゅまる自然学校 校長
 - 伊谷 玄 (特)西表島エコツーリズム協会 理事・事務局長
 - 大堀健司 エコツアー-ふくみみ 代表
 - 加蘭明宏 沖縄体験ニライカナイ 代表
 - 島袋徳和 やんばる自然塾 代表
 - 中根 忍 やんばるエコツーリズム研究所 代表
- USA
 - 江崎絢子 国際エコツーリズム協会(TIES) Director of Communications

地域を元気にしよう！ エコリズムで

日本エコツーリズムセンター(エコセン)は、地域活性化のポイントは「地元を愛する人を育て、自立すること」と考えています。“箱もの”ではなく“人”に投資することこそが、持続可能な地域をつくと確信しています。

「地域が活性化する」とは、具体的にはどのようなイメージでしょうか？
たとえば、「地元を出ていった若者が戻って来る」、「地域のサークル活動が活発になる」、「時間を持て余すしかなかったお年寄りたちが、仕事を再開する」……。それは現役時代の仕事かもしれないし、地域に古くから伝わる知恵や技術を今に活かしたり、子供や孫に伝承する仕事だったりします。また、「地域が元気になっていることが、他の地域に知られるようになる」などもあげられるでしょう。

地域活性化を達成するための有効な手段が「エコツアー」です。エコツーリズムは、エコツアー(環境保全型旅行・持続可能な旅行)の背景となっている考え方。エコツーリズムを利用した地域の魅力を再発見する活動が、活性化の第一歩になります。地域の

自然、文化、風習、歴史など、地域に住む人たちが地域のもつ魅力にあらためて気づき、自分たちの存在や役割を知ることが、その地に住む者としての「誇り」を回復していきます。

エコツーリズムを活用した地域活性化の第二歩目は、エコツアーの実施に必要な、あるいは地域活性化に必要な課題と目標を立てていくことです。また、地域の担い手となる人材を育てることが、地域を愛する人たちを増やし、一人ひとりの創意工夫を促し、同じ思いを持った仲間たちを集めることにつながります。地域を盛り立てるキーマンも、ここから現れるでしょう。「人」を育てることが地域に希望を生み、その地域が持っていた独自の文化や産業をふたたび沸き立たせる原動力となるのです。

このような地域づくりをエコセンはお手伝いしたいと思っています。地域を豊かにすることが、日本の美しい自然や文化を守り、地球規模での環境保全や、戦争のない平和な世界をつくることにつながると信じるからです。

[history] 2007.8.22 日本エコツーリズムセンター設立 ● 2008.2.8 内閣府認証のNPO法人に ● 2008.2.20 NPO法人として設立登記



エコツーリズムで地域を元気にしよう!



日本エコツーリズムセンターは、「エコツーリズムで地域を元気にしよう!」を合い言葉に、エコツーリズムの第一線で活躍する実践者、研究者らが結集した日本初の全国ネットワークです。このネットワークを活用し、エコツーリズム普及の担い手となるガイドやコーディネーターの育成をはじめ、地域支援、事業者支援、エコツアーファンを増やすための普及促進・広報活動などを行っています。

日本エコツーリズムセンターってどんなNPOなの?

エコツーリズムの第一線で活躍する実践者、研究者らが集まった、全国的な組織だよ。地域を元気にするエコツーリズムを普及するために、地域や事業者を支援したり、エコツアーをみんなに知ってもらうために、「エコツアー・ドット・ジェイピー」というウェブサイトを運営している。日本エコツーリズムセンターは「エコセン」って呼んでね。ケロ。

「エコツーリズムで地域を元気にしよう!」って、どうことなの? そもそも「エコツーリズム」と「エコツアー」はどこが違うの?

エコツアーをひとことではいえない「環境保全型の旅行」のこと。環境と観光の調和をとり、自然や地域固有の文化を壊したりしない旅行、つまり、環境にやさしい旅行のことだよ。一方のエコツーリズムは理念や考え方で、エコセンでは、エコツーリズムを地域の発展を促す有効な手段と位置づけているんだ。

そのエコツーリズムで、どうやって地域を元気にするの?

地域が元気になるには、若者がいることが不可欠だけど、なぜ若者は地域を出て行っちゃうんだろう?



やりたい仕事が無かったり、娯楽もあまりなかったりするから、つまらないんだと思うな。

地域の仕事や農業、地域の文化、家族を含む地域住民との人間関係に、誇りや愛情を持ってなくなっているからともいえるよね。

そうね。誇りや愛情があれば、思いとどまる理由のひとつになるわよね。

若者だけでなく、その両親やその上の世代の人たちも誇りを失いつつあると、エコセンでは考えているんだ。

地域に行くとき「ここにはコンビニもない、何も無いつまらないところ」「農業のようなつらい仕事は子供たちに継がせられない」、「自分の楽しみは、パチンコとゲームだけ」、というような寂しい話を聞くこともあるんだよ。

でも、「何もない」と地域の人たちが思っているところに、都会の人たちがエコツアーなどで行くと実はすごく感動しちゃうものなんだよ。

手入れされて美しい里山、小川のせせらぎ、採れたての食材をつかった手料理、カゴや織物などの手づくり品、道具、お祭り、遊び、風習、水、空気、風の音、野鳥のさえずり、虫の音、蛍、夕焼け、星空、情緒、人情

……。何もないどころか、都会にはないすてきなもののほかがある。

あるある。だからわたし、田舎大好きなんだ。

そうしたものを素直に「すてきだ」と言うと、地域の人たちは驚き、そしてすごく喜ぶ。自分たちのふだんのくらしや環境、昔から受け継いできたものは、実は誇りに思っているいいもの、都会人にはうらやましいものだと、気づくんだよ。

そうよね。誰か他人に認められて初めて、自分という存在を確認できたりするものよね。

その誇りの発見というか、再生をお手伝いしようというのがエコセンなんだ。

エコツーリズムとは?

日本エコツーリズムセンターの定義

地域の特色ある自然・文化・暮らしへの理解を深める旅行や交流活動によって、地域の環境保全や産業振興につながる、仕組みづくりのこと。

具体的にはどんな活動をエコセンはするの?

講演会やシンポジウム、エコツアーガイド講習会、地域コーディネーター講習会、エコツアーカフェなどを通じて、地域に人々が集まる「場」をつくり、地域にあるものを再発見してもらったり、人と人とのつながりを新たに構築してもらうんだ。

外部の人が言ってくれないと、内部の人には分からないことってあるよね。エコセンからは誰が行くの?

「世話人」たちさ。地域に根ざしたエコツーリズムを実践している人や、地域活性化のために全国を歩いている研究者や指導者たちで、このエコツーリズムの世界では有名な人ばかり。世話人は、地域が元気になるにはどうしたらいいかといった事例や、エコツーリズムを地域に根付かせるための具体的な方法論を知っている。

世話人って、地域に元気をもたらす「世話人」であり「地域の応援団」なんだね。地域でエコツアーをつくらうもするの?

地元の人たちに向けて、地域の良いところを再確認するエコツアーをつくり、子供も大人もみんなが参加するようになれば、自分たちの住む土地をもっと好きになれ

るはずだよ。さらに、都会の人を呼べるようなツアーをつくるのができれば、都市との交流が生まれ、若者を地域に強力に引き留める有力な産業のひとつになる。エコツアーを行う人だけでなく、宿泊、交通、飲食店、お土産屋さんなど、関連産業の活性化も期待できるよ。

それはいいわね。でも、簡単にうまくいく?

簡単とはいえないね。ただ、仮にエコツアーを企画できなくても、地域の課題が明確になり、みんな

で共有できるようになる。「地域の未来を一緒に考えよう」という人たちのつながりがその地に誕生するから、今後の地域活性化に期待が持てるようになるはずだよ。地域の人たちが再び誇りを持っていきいきと暮らすようになれば、産地直送の事業や地域内の文化交流なんかが生まれるかもしれない。

エコツアーカフェTOKYOの「葉っぱで2億円稼ごうおばあちゃんたち」で鹿熊動さんが話してくれたけれど、地域が元気になると、自治体の医療費負担もぐんと下がるとあって。

わたしも、そのときのエコツアーカフェに行っただよ。そうか、エコツアーカフェって、人がつながる「場」でも

あったんだね。

昔は、地域の人が気軽に集まれる場所や、共同作業を行う「結」(ゆい)、「隣組」とかがふつうにあったけれど、今は少なくなってきている。エコツアーカフェは、沖縄の「ゆんたく」に近いのかも知れないけれど、楽しくおしゃべりできて、人と人とのつながりがそこで生まれれば、きっと新しいことができるようになるはずだよ。

エコセンでは、いろんなところで「エコツアーカフェを始めませんか?」って言って回っているんだ。みんなが集まれる場所をつくらうって。友達になろうって。

そうすれば楽しいね。また行きたくなっちゃった。



地域を元気にするエコセンのプロジェクト

人材育成

エコツーリズム普及の担い手となるガイドやコーディネーターを育成し、地域のエコツーリズム力をアップします。

エコツアーガイド養成

第一線で活躍する講師陣が教える、実践を交えたカリキュラムです。すでにガイドとして活動中の人にはスキルアップにつながります。

コーディネーター養成

地域でエコツーリズムを推進するキーマンとなる地域コーディネーターを、経験豊富な講師陣が養成します。

地域・事業者支援

地域のエコツアーサイトなどを中心に「受け地型」の活動に力を入れ、地域の魅力を活かしたエコツーリズム推進のお手伝いをします。

マーケティング、事業立案

エコツーリズムの導入・推進を目指す自治体や事業者へ、資源調査やマーケティングなどのコンサルティング、事業計画の立案を行います。

講師派遣

エコツーリズム関連のシンポジウムやセミナーなどに、全国で活躍する実践者・研究者を派遣します。

地域協議会設立支援

「エコツーリズム推進法」にそった地域協議会の設立を支援します。

CSR支援

企業が取り組むエコツーリズムや、ステークホルダーへの環境教育など、環境関連のCSR活動をサポートします。

研修、講師派遣

社員への自然体験研修や環境教育の実施、環境シンポジウム、セミナー、勉強会への講師派遣を行います。

環境教育プログラムの作成

エコツアーや自然体験活動、環境情報など、お客様に提供する環境教育プログラムの作成や実行の支援をします。

環境事業の支援、調整

環境経営を推進する企業の事業立案、コンサルティングをはじめ、地域との橋渡しや調整を行います。

災害復興支援

エコセン世話人たちの災害支援活動のノウハウを最大限に活かし、迅速な災害復興支援を行います。

募金、ボランティア情報発信

緊急に必要とされているものを迅速に提供します。

震災エコツアー

被災地を元気づけ、自然災害を実感するツアーを実施。被災地の支援や報道を風化させることなく、持続していくための活動を行います。

調査研究

迅速な支援の方法、被災地の持続的な発展をサポートするための調査・研究、ノウハウの蓄積を行います。

保険

誰もが安心して参加できるエコツアーになるよう、エコセンの団体会員向けに手軽で割安な保険を提供します。

エコツアー保険

傷害保険と賠償保険の2種類が同時に加入できる年間包括タイプです。加入者が増えると団体割引も適用されるので、保険料の節約にもつながります。

調査・研究

全国のエコツーリズム推進団体や研究者と協力して、エコツーリズム関連の各種制度研究、調査事業を行います。

認証制度の研究

エコツアー団体やエコツアーガイドの認証制度を研究し、誰もが安心してツアーに参加できる仕組みを考えていきます。

調査・研究受託

エコツーリズムに関する調査・研究を自治体や企業などから受託します。



普及促進

エコツアーファンをダイレクトに増やすエコツアーやカフェの実施、最新のエコツーリズム事例を紹介するシンポジウムを開催します。

エコツアー

エコツアーの楽しさを多くの人に実感してもらうために、エコセン独自のツアーや協賛ツアーを実施します。

エコツアー紹介

エコセンおすすめのエコツアーやガイド、地域などを紹介し「はじめて」の人も安心して楽しめるようにします。

エコツアーカフェ

ゲストスピーカーを交え、エコツアーの魅力を楽しむ語り合う場(カフェ)を展開します。全国にエコツアーカフェを広げ、エコツーリズムを身近なものにしていきます。

エコセンシンポジウム

地域での導入事例や世界のエコツーリズム情報など、エコツーリズムに関する最新事情をさまざまな角度から探るシンポジウムやフォーラム、ワークショップを開催します。

広報・ネットワーク

持続可能な社会の実現に向けて、広報活動や関連団体との連携に力を注ぎます。

インターネットでの発信

エコセンのホームページや、自然と環境のポータルサイト「エコツアー・ドット・ジェイピー」を使い、エコツーリズム関連の情報を発信します。

メディアへの情報提供

マスコミ向けの情報発信やイベントへの出席で、エコセン団体会員の広報を支援します。

展示会・イベント出展

展示会やイベント等に出展し、エコツアーの普及や会員の紹介を行います。

広報コンサルティング

事業者がより効果的に広報・宣伝を行うためのコンサルティングを行います。

関連団体との交流

エコツーリズムが目指す持続可能な社会の実現に向け、関連団体と交流し、ネットワークを広げます。



養成講習会修了証



日本初の震災エコツアー (宮城県栗原市)



災害復興支援 (宮城県栗原市)



エコツアーカフェ。東京、神戸、岐阜、沖縄、高知…エコツアーカフェを各地で



日本エコツーリズムセンター設立記念シンポジウム



エコツアーガイド・コーディネーター養成講習会 (静岡県)



エコツアーガイド養成講習会 (土佐清水市)



エコプロダクツ展。エコツーリズム&アウトドアコーナーのプロデュース(2008)



活動方針等を話し合うコンセプトワークを年4回実施



地域活性化のヒントと事例をレポート。エコセンブックレット (定価500円)



エコツアー関連の情報を誰でも無料で発信できる。 www.eco-tour.jp

地域を元気にするエコセン活用例

1. エコツーリズムの導入事例を聞いてみませんか？

自分たちと同じ悩みを抱えていた地域や自治体が、どのように変わっていったか。他の地域でのエコツーリズムの導入事例を知ることは、自分たちの地域の未来を探るうえで重要です。地域の有識者の懇談会や商工会議所のセミナー、自治体の勉強会にエコセン世話人をお呼びください。

2. エコツアーカフェを地域で定期的に関きませんか？

「エコツアーカフェ」は、地域の未来に関心を持つ人たちが気軽に集まり、おしゃべりをする場。集会所や既存のお店などを利用し、毎回テーマを決めて集まるとよいでしょう。若者たちと年長者、土地の者と1ターンした人やよそ者が、立場や地域を超えてつながることが、地域活性化の原動力となります。地域で独自に開始してもいいし、全国に広がるエコセン世話人がゲスト講師として初動のお手伝いに行くことも可能です。

また、エコツアーカフェを始められた場合は、エコセンのHPやメールマガジンで、広報の支援を行います。「地域が何かを始めている」というメッセージを地域の内外に広く伝えていくことが、地域の元気につながります。

3. 体験会やワークショップを地域で実施してみませんか？

エコツーリズムの導入効果を「エコツアー体験会」や「エコツーリズム・ワークショップ」で、確認してみませんか？ 地域の人たちを参加者にすれば、反応や効果を楽しみながら実感することができます。

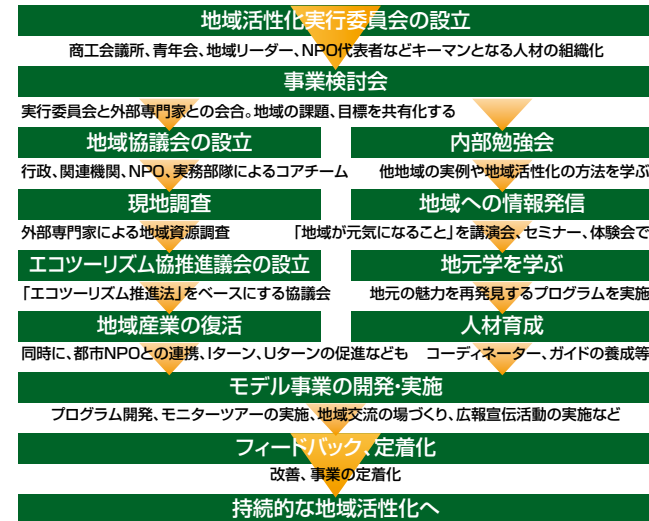
また、地域の魅力の再発見や、エコツアーのメニューづくりを地域の人

たちとともに行うワークショップなら、地域活性化のための道筋を、より明確にすることができます。全国に広がるエコセン世話人が、ガイドや講師として出張します。

4. エコツアーガイドや地域コーディネーターを育てませんか？

地域内はもちろん、よそからも大勢の来客を呼び、案内するには、エコツアーガイドが必要です。また、地域でエコツーリズムを広げ、育てていくには、地域の調整やネットワークづくりを行う地域コーディネーターも欠かせません。コーディネーターの仕事を理解することは、地域にエコツーリズムを導入するための全体像を知ることにもなりますから、コーディネーターを生業としたい人はもちろん、自治体関係者の研修の場としても最適です。エコツアーガイドやコーディネーターの仕事を学ぶことは、地域の魅力を発見する近道となるとともに、お客様をもてなすためのホスピタリティを学ぶ絶好の機会となります。

■ エコツーリズムを活用した地域活性化のためのワークフロー例



講師陣はエコセンおすすめの、エコツーリズムの第一線で活躍する事業者や研究者のうち、国内で最高レベルの人たちです。

5. エコセンシンポジウムやエコツーリズムの全国大会を開催しませんか？

大勢の地域の人たちに、地域の課題と目的意識を共有してもらうには、少し大がかりなシンポジウムやエコツーリズムの全国大会の開催が有効です。エコセンの世話人や有識者たちがパネラーとなって、地域の課題や全国の話題を提供し、地域自治体のやる気を一気にPRします。

6. エコセンの団体会員にありませんか？

団体会員になると、ネットワークがぐんと広がります。また、エコツアー保険、モンベル社のアウトドア商品の特別割引、エコセンHPでの広報、エコツアー・ドット・ジェイビー「おすすめエコ！」1カ月無料などの特典も利用できます。

エコセンと一緒に地域を元気にしよう！

日本エコツーリズムセンターとともに、エコツアーをメジャーに、そして地域を元気にしましょう。日本エコツーリズムセンターでは、エコツーリズムの普及と促進、環境の保全、そして持続可能な社会の実現と戦争のない平和な社会を目指すために、活動や志を共にする個人会員、団体会員、賛助会員を募集しています。

個人会員(普通会員)

- 入会金：無料
- 年会費：2,000円(1年間)
- * 個人会員には議決権がありません。
- 会員特典：エコツーリズム関連情報の提供、イベントの優待、モンベルクラブ会員特典ほか

【モンベルクラブの会員特典とは？】

フレンドショップでの特別優待、フェリー・レンタカー割引、季刊会報誌「OUTWARD」のお届け、モンベルクラブメンバーズポイントなど盛り沢山！日本エコツーリズムセンターの個人会員になると、年会費2,000円で、モンベルクラブ(年会費1,500円)会員特典がすべて利用できるようになります。



団体会員(普通会員)

- 入会金：無料
- 年会費：5,000円(年度単位)

賛助会員

- 入会金：無料
- 1口：40,000円(1年間)
- * 団体会員、賛助会員には議決権がありません。
- 会員特典(団体会員、賛助会員共通)
 - ・エコツアー保険への加入資格
 - ・モンベル商品の特別割引
 - ・エコセンとエコツアー・ドット・ジェイビーのホームページでの会員名紹介、リンク
 - ・エコセンの印刷物等での会員名紹介
 - ・イベント出展時等でのパンフ配布代行サービス
 - ・エコツアー・ドット・ジェイビーの有料告知「おすすめエコ！」1カ月無料(通常：消費税込み3,150円)



入会申込書		申込日： 年 月 日
<input type="checkbox"/> 個人会員 2,000円 <input type="checkbox"/> 団体会員 5,000円 <input type="checkbox"/> 賛助会員 1口 40,000円× <input type="text" value="0"/> 口 = <input type="text" value="0"/> 円		
お名前 <input type="text" value="フリガナ"/>		モンベルクラブ会員No. (すでにお持ちの方はご記入ください)
(ご担当者名)		
生年月日 / 性別 * 個人会員のみ記入 大正 昭和 平成 年 月 日 / 男 女		
団体名 / 部署名		
ご住所 <input type="text" value="0000-0000"/>		都道府県 <input type="text" value="-"/> 電話 <input type="text" value="-"/>
市区郡 <input type="text" value=""/>		ビル名・マンション名もお書きください
Eメール <input type="text" value=""/>		<input type="checkbox"/> モンベルクラブのメールサービスを希望しない

● 下記口座にご入金後、入金先に☑を記入し、この入会申込書をFAXまたは郵便でお送りください。

- 三井住友銀行 目白支店 普通口座 6826522 (トクビ) ニホンエコツーリズムセンター
- ゆうちょ銀行 振替口座 00150-2-543633 特定非営利活動法人 日本エコツーリズムセンター

入会申込みはホームページからも可能です。